

平成 26 年 6 月 25 日

## ご存知ですか。岡山県立博物館の亀

博物館友の会会員 丸谷憲二

ご存知ですか。岡山県立博物館の亀。博物館の入口に二つの石棺があります。石の色は異なりますが二つとも姫路の竜山石使用と表記されています。

朱千駄古墳出土の石棺は「亀の形」をしています。「亀が泳いでいる形」です。古墳時代に亀信仰がありました。「亀の形」の石棺を作った人の名前も分かっています。『播磨国風土記』に石棺作りの記録があり、**石作連大来**(いしつくりのむらじおおく)の名前があります。邑久町の古名「**大来(おほく)**」の縁の人です。『日本書紀』に「**大来(おほく)皇女と皇女大来**」の記録があります。博物館を見学し石棺を一周して「泳いでいる亀」を確認しましょう。

|  |   |  |
|--|---|--|
|  | <p>八幡大塚 2 号墳出土<br/>土の石棺</p>   | <p>八幡大塚2号墳出土の石棺<br/>岡山市北浦<br/>古墳時代後期<br/>八幡大塚2号墳は児島半島北東部の児島港に向かった台地上に立地する。墳丘径は約35mで、児島半島東部最大級の円墳である。<br/>横穴式石室の奥壁に近い部分に、石室の長軸に平行して、この石棺が安置されていた。石棺は長持形石棺の伝統をひいた組合せ式家形石棺で、ふちに縄掛突起が造り出されている。石材は播磨の竜山石である。<br/>石棺内部は赤色に塗られ、風化した人骨とともに金製の垂飾付耳飾・銀製の鍍金した空玉・大刀・鉄鎧・鉄製刀子などが納められていた。</p> |
|  | <p>朱千駄古墳出土の<br/>石棺</p> <p>石棺は「亀の形」<br/>をしています。「亀<br/>が泳いでいる形」<br/>です。</p> | <p>朱千駄古墳出土の石棺<br/>赤磐市總崎<br/>古墳時代前期<br/>朱千駄古墳は、両宮山古墳の南西、山陽町の平野部の西端に位置する全長約65mの前方後円墳である。<br/>後円部中央に、墳丘軸線に平行して埋められていたこの石棺は、6枚の石で組み立てられた長持形石棺で、ふちに縄掛突起が造り出されている。石材は播磨の竜山石である。<br/>石棺内からは、古墳の名称のもととなった多量の赤色顔料と、勾玉・管玉を含むおびただしい数の小玉や、铁鏡・蛇行状铁器とともに銅鏡2面が発見されたという。</p>                   |
|  |   | <p>亀の尾と後足</p> <p>亀の頭</p>   |